

欠株の防止、早期除草と管理

とうもろこし畑をみると10%以上の欠株は珍しくない。欠株があっても周囲の株が大きくなる補償作用は僅かであるから、ほぼ欠株の分だけ減収になる。欠株の原因としては野鳥、肥料ヤケ、虫害その他管理作業中の機械によるものがある。

野鳥による被害を防ぐ完全な方法はないが、市販の忌避剤や鉛丹の粉衣、爆音器および粉衣と爆音器の組合せなどが有効である。

肥料ヤケは三要素のうち窒素が原因である。10a当りN 10 kg 以上で乾燥する年に多発する傾向が強い。作条施肥の場合は肥料と種子の間に5cm

以上の間土が必要である。最近は種子の側方に施肥するプランターがあるので、それを使用すれば肥料ヤケの心配はほとんど起こらない。

高収量を狙うと施肥量が多くなるので雑草の繁茂も著しい。とうもろこしが幼苗時に雑草に負けると、後日完全に除草してもとうもろこしが正常に生育するのは困難であり、早期除草が重要視される理由である。現在手取りはほとんど行なわれず除草剤の使用が多いが、適期使用が最も有効であり十分厳守する必要がある。また、中耕は早目に切上げる方がよい。また、カルチを深く入れると根を切断し、生育が遅れるので避けるよう注意することが大切である。

新しいタイプの
F₁とうもろこし

ニューデントサイレージ

高栄養(高カロリー)
サイレージ

○ニューデント系品種の一般特性

- 《栽培》○雑種強勢が強く、初期生育旺盛で揃性が良い
○倒伏、折損に強い
○葉病害(ゴマ葉枯病・スモン病)に極めて強い
○下葉の枯上りが少ない
○霜に対する抵抗力が強い
- 《収穫》○機械収穫に適している
○晩期収穫が可能である

- 《まとめ》◎すぐれた《栽培》及び《収穫》特性が、穀実・総収量の増収に結びつく
◎栄養面でみると——収穫時まで緑の茎葉を保持しているので——高TDNにとどまらずビタミン・ミネラルが増大する
◎子実量が多く、枯葉が少ないので良質サイレージの調製が容易である

○ニューデント系品種の適正栽培のポイント

